

道新富良野版連載記事「富良野の木に会う」

読みもの・コラム

投稿者：：

Posted on : 2010-12-14 17:00:00

2010年夏と秋に、当センターボランティア研究員である倉橋昭夫さん（農学博士）が、北海道新聞富良野版に連載した記事を号紹介します。なおこの記事は北海道新聞社の著作物利用許諾（D1012-9912-00007004）を得て紹介しています。＊「続・富良野の木に会う」は別に掲載します。

「富良野の木に会う」

～はじめに～

樹木、特に巨木は生命の大切さや地域の自然・歴史を学ぶ貴重な生きた教材といえます。

今夏、北海道新聞社富良野支局の内木弘三支局長の企画に協力し、富良野市街地、その周辺の田園地帯と身近な森にある特徴的な樹木22種を取り上げ、樹木が生育する地域の歴史や文化も織り交ぜながら、樹木の特徴や人との関わりについて紙面でご紹介しました。

連載は夏の6月29日～7月9日に「富良野の木に会う」と題して第1弾を、さらに秋の10月13日～30日にわたり「続・富良野の木に会う」として第2弾を掲載しました。

22種のうち自生郷土種（在来種）が13種、ほかに異郷土種（外来種）が9種あり、異郷土種が約半数近くに及びます。120年に及ぶ郷土の歴史において、異郷土種が身近な生活の中で定着し、様々な役割を演じています。

巨木は歴史的な財産ですが、特に郷土種は地域の自然を探る上で、保存登録されることが望ましいでしょう。身近な場所で木の名前や特性を学ぶための教材としても最適です。皆さんもここで紹介するような木々と触れ合ってみてはいかがでしょうか？なお記事中の素敵な写真は北海道新聞社の小川正成さんに撮影いただきました。

倉橋 昭夫



大樹くまの森公園にハルニレ。地蔵の石が切られて横に、開拓期に植えられたと伝わる。(山口 隆雄撮影)

富良野の木に会う

ガイド・斎藤昭夫 さん

① ハルニレ

開拓の記憶刻む巨木

ハルニレは、富良野地域の開拓小と南小中学校に刻まれていることでよく知られる大木です。2にもありました。

開拓期には、開拓者の手によって植えられた。開拓期には、開拓者の手によって植えられた。開拓期には、開拓者の手によって植えられた。

開拓期には、開拓者の手によって植えられた。開拓期には、開拓者の手によって植えられた。開拓期には、開拓者の手によって植えられた。

夏の日は、中々、大木を育てて、自然を育ててくれる木がある。空を突き抜けるように高く立ち、人を驚かす木もある。花の美しい木、開拓期からの記憶を伝える木。富良野のまちを彩る数多くの樹種を知るため、表の博士高橋昭夫さんにガイドをお願いした。まずは初夏を彩るハルニレの樹種を紹介する。

ふらのやまへ美し、校のうしろの樹種が、校と地域の理解が一体となり、あひ、白山郡第一小の以上ある木がある。あひ、白山郡第一小の以上ある木がある。あひ、白山郡第一小の以上ある木がある。

あひ、白山郡第一小の以上ある木がある。あひ、白山郡第一小の以上ある木がある。あひ、白山郡第一小の以上ある木がある。



くもはし・あきお 東大北海道農林で長らく教育研究に携わった。「どろ亀さん」こと故・高橋昭夫氏を前に、専門の林木育種で東大農学博士。退職後は市生涯学習センターのボランティア友の会代表として、市民の自然学習をサポートしている。山口郡木更町在住。74歳。



開拓期に植えられたハルニレ。地蔵の石が切られて横に、開拓期に植えられたと伝わる。(山口 隆雄撮影)

富良野の木に会う

ガイド 斎藤昭夫 さん

② ミスナラ

どんぐり実る長寿木

ミスナラは、富良野地域の開拓小と南小中学校に刻まれていることでよく知られる大木です。2にもありました。

開拓期には、開拓者の手によって植えられた。開拓期には、開拓者の手によって植えられた。開拓期には、開拓者の手によって植えられた。

開拓期には、開拓者の手によって植えられた。開拓期には、開拓者の手によって植えられた。開拓期には、開拓者の手によって植えられた。

大きく広がる樹冠が印象的なキタコブシ。山形県鶴岡市の鶴岡一本木園に保存されている（小山田政弘撮影）



富良野の木に会う ガイド 倉橋昭夫さん

「大きなコブシの木の下で」と語を吐いて歌いながら、力強く美しい樹冠を呈しています。山形県鶴岡市の鶴岡一本木園に保存されている（小山田政弘撮影）

③ キタコブシ

どっしり力強く美しく
しを有しています。樹木が花開く季節は、樹冠に広がる緑が、富良野地方で多く見られる。山形県鶴岡市の鶴岡一本木園に保存されている（小山田政弘撮影）



富良野の木に会う

ガイド 倉橋昭夫さん

④ 青空高く伸び伸びと

「大きなコブシの木の下で」と語を吐いて歌いながら、力強く美しい樹冠を呈しています。山形県鶴岡市の鶴岡一本木園に保存されている（小山田政弘撮影）

富良野市の校庭を流石と、木陰をのびのびと伸ばすシタレヤナギ（山田道雄氏提供）



富良野の木に会う

ガイド 倉橋昭夫 さん

⑥ シタレヤナギ

校庭見守る大きな傘

校庭には守りこむように、気よく育ててくれています。ふさわしい樹木がたまたま、ふさふさ生えています。1 樹の直径が10cm以上あり、90cm（樹高30m）以上、幹は太く、樹冠が広がり、樹齢が100年以上の樹で、百年以上の歴史を有し、樹下が広がる樹形は美しい。富良野市小学校には、樹齢が100年以上の樹が数多くあり、樹下が広がる樹形は美しい。富良野市小学校には、樹齢が100年以上の樹が数多くあり、樹下が広がる樹形は美しい。

小学校近くの交通路にふさわしい樹木がたまたま、ふさふさ生えています。1 樹の直径が10cm以上あり、90cm（樹高30m）以上、幹は太く、樹冠が広がり、樹齢が100年以上の樹で、百年以上の歴史を有し、樹下が広がる樹形は美しい。富良野市小学校には、樹齢が100年以上の樹が数多くあり、樹下が広がる樹形は美しい。

小学校近くの交通路にふさわしい樹木がたまたま、ふさふさ生えています。1 樹の直径が10cm以上あり、90cm（樹高30m）以上、幹は太く、樹冠が広がり、樹齢が100年以上の樹で、百年以上の歴史を有し、樹下が広がる樹形は美しい。富良野市小学校には、樹齢が100年以上の樹が数多くあり、樹下が広がる樹形は美しい。

小学校近くの交通路にふさわしい樹木がたまたま、ふさふさ生えています。1 樹の直径が10cm以上あり、90cm（樹高30m）以上、幹は太く、樹冠が広がり、樹齢が100年以上の樹で、百年以上の歴史を有し、樹下が広がる樹形は美しい。富良野市小学校には、樹齢が100年以上の樹が数多くあり、樹下が広がる樹形は美しい。



市役所の横に大きく成長を遂げるミタナス。歴史の古い平和公園のシンボル（中山正成撮影）

富良野の木に会う ガイド 倉橋昭夫さん

明治初めに北樽川に入ってきた、広くフタタス（フタスカグノキ）と鉢はれてきた、ススカグノキとアメリカススカグノキの混雑。主としてバスカグノキであるといわれている。樹力の断面樹で、多いのがフタタス、イチヨウ、シダレヤナギ、ニシアカシアで、いずれの樹種もかなり適度な定着と樹幹の切り詰められて両三方が旺盛です。空間の許す限り自然の樹姿に伸ばしたいものです。プラタナスは葉が大きいので、あめ下がる球状の葉が特徴的で、

⑦ プラタナス

木肌の模様ユニーク

本肌の模様が面白く、滑らかで磨りよく公園樹に適している。市内で開設年が古い公園（1892年、市役所の平和公園）に、樹の姿が1級樹の木の姿があり、公園を重宝する者として人気が高いです。文化公園の基木から、高い目に樹冠を付けている人が多くいます。日本ではススカグノキというの、山が上にある樹幹に由来して、いとも言われます。（中山正成撮影）



樹皮の模様がユニークなヤチダモ。樹幹の断面は、樹皮の厚さや木質の硬さによって異なる。写真：中山正成

富良野の木に会う ガイド 倉橋昭夫さん

⑧ ヤチダモ
湿地の代表 幹真つすく
ヤチダモは、湿地の代表として、幹が真つすく、葉が緑で、花が白く、実が赤い。樹皮は、縦に裂けて、木質は、柔らかい。樹幹の断面は、樹皮の厚さや木質の硬さによって異なる。写真：中山正成



ガイド・倉橋昭夫 ©M

⑨ホオノキ

ります。

==つひめ==